

# 特集

## スポーツをする・みる・ささえる人で賑わう 富士の麓で頂点を目指す！ 準高地トレーニングができるまち「裾野市」

市では、富士山麓の豊かな自然環境や標高の高さ（準高地）、首都圏からのアクセスの良さなどの地域資源を生かし、スポーツを通じた地域振興に取り組んでいます。長距離陸上部をターゲットにした合宿誘致をメインにしたさまざまな取り組みを紹介します。

産業振興課  
995-1825

### 地域スポーツコミッションを設立 —スポーツを通じ地域振興を目指す—

スポーツを通じた地域振興を目指すため、平成30年3月に市スポーツツーリズム推進協議会（略称S-SPO）が設立されました。協議会は、大会・合宿などの誘致やスポーツ環境の充実、受け入れ体制の整備など、スポーツツーリズム事業の推進役を担っています。



〈S-SPO公式HP〉

### 準高地の豊かな自然と標高差がアスリートを育てる

市内や近隣市町の環境を生かして標高0mから1,450mまでの10コースを設定。バリエーションあるトレーニング環境がアスリートに好評です。水ヶ塚公園と梅の里にはクロスカントリーコースや遊歩道が整備され、距離の異なる複数のコースが設定されています。健康維持やウォーキングを楽しむ皆さんにもお勧めです。

その他のコース紹介はコチラ▶



水ヶ塚公園  
クロスカントリーコース



梅の里遊歩道・  
クロスカントリーコース





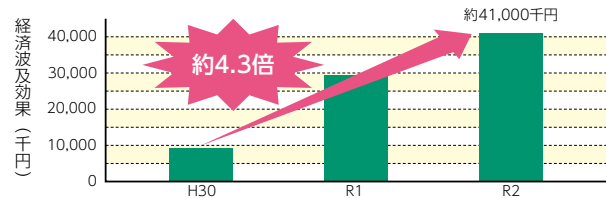
# スポーツ × (かける)〇〇 でまちづくり

## 1 〈スポーツ × 合宿〉 陸上のスポーツ合宿誘致

陸上チームへの直接訪問や、さまざまな大会での誘致活動を積極的に行い、富士山麓のスポーツ合宿の地として徐々に認知されてきています。コロナ禍の中でも合宿利用者は年々増加し、平成30年度から3年間で4倍以上の経済波及効果をもたらしています。大学や実業団の駅伝などで活躍する東海大学、国士舘大学、カネボウ、コモディイイダ、資生堂、ニトリなどのチームも合宿地として当市を利用し、監督やコーチなどからも高い評価を得ています。

3年間の合宿実績と経済波及効果

年度	合宿チーム数	宿泊者数(人)	延べ宿泊者数(人)	経済波及効果(千円)
H30	12	264	731	約9,580
R1	27	389	1,513	約29,400
R2	32	467	2,526	約41,000



## 2 〈スポーツ × 食〉 「すその頂飯 (いただきめし) プロジェクト」 ~アスリート支援~

すその頂飯は、アスリートやスポーツ愛好家が喜ぶ栄養バランスが取れた料理のことです。メニューには地元の食材を取り入れ、市内で栽培された栄養豊富なキヌアを使用したものもあります。

合宿に来たアスリートを食事の面からサポートし、富士の麓で文字通り頂点を目指すための『献立開発』と、市内宿泊施設や飲食店などが参加した『スポーツ栄養学講座』の2つを柱とした『すその頂飯プロジェクト』を展開しています。



### 頂飯プロジェクトが食文化ツーリズム賞を受賞!

スポーツ庁・文化庁・観光庁が取り組む『スポーツ文化ツーリズムアワード2021』で、全国42の取り組みの中から10件の団体が表彰され、すその頂飯プロジェクトが特別賞の『食文化ツーリズム賞』を受賞しました。(11月30日(火))



## 3 〈スポーツ × 医科学〉 準高地トレーニング実証実験

準高地トレーニングの効果を医・科学的に検証する実証実験を、静岡大などと連携して取り組んでいます。準高地トレーニングの優位性を明らかにして、合宿誘致に繋がります。



### 市が室伏スポーツ庁長官表彰を受賞!

市のスポーツを活用したまちづくり活動が総合的に評価され、室伏スポーツ庁長官表彰『スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰2021』を受賞しました。12月14日(火)に行われた表彰式で、室伏広治長官から市長に表彰状が手渡されました。これからも官民一体でスポーツによる地域活性化に取り組んでいきます。

